



司會官	副官	主任	部員

剛才兵彈第三之號

試製七糎打上筒彈藥試製阻塞彈  
取扱上ノ注意ニ関スル件通牒

昭和十八年十一月十四日

剛部隊參謀長

第三確習令殿

首題彈藥ハ別紙概説ニ記載ノ通り敵機ノ超低  
空襲撃ニ對スル防禦用トシテ海上或ハ地上ニ  
於テ使用ス該阻塞彈ヲ陸上ニ於テ使用スル  
場合ハ其場所ヲ明ナラシムルト共ニ地上ニ落  
下シタル阻塞彈ハ別紙使用上ノ注意ヲ一般ニ  
徹底セシメ不慮ノ危害ヲ成起セシメガル様特  
ニ注意セラレ度  
追而別紙使用上ノ注意ニ記載シアル該彈  
藥ノ處置ハ部隊兵器掛ニ於テ處置ヤシメラ  
レ度爲念申添フ



2000

試製七糧打上筒彈藥試製阻塞彈概説

一、使用目的

試製七糧打上筒彈藥試製阻塞彈ハ高サ四〇〇  
米以下ノ低空ニ浮遊彈幕ヲ構成シ飛行機ノ超  
低空襲撃ニ對スル防禦ノ用ニ供スルモノトス

二、機能

本彈藥ヲ打上筒口ヨリ裝填スルトキハ落墜發  
火ニ依リ直ニ發射セラレ約八秒ノ後高サ約四  
〇〇米ニ於テ曳火破裂シ七箇ノ子彈ヲ空中ニ  
放出ス子彈ハ約一秒後再ビ曳火破裂ヲナシ爆  
筒ヲ約五〇米ノ範圍ニ散布懸吊ス懸吊セラレ  
タル爆筒ハ毎秒約二米ノ速サヲ以テ降下ス  
滞空時間約三分間ニシテ此ノ間飛行機之ニ觸  
レルトキハ觸發信管ハ直ニ作用シ爆筒爆發シ  
飛行機體ヲ破壊シ尚破片飛散シ搭乗者或ハ油

槽其他重要ナル部分ニ損傷ヲ與ヘ飛行ヲ不能  
ナラシム

三使用上ノ注意

1. 落下スル外筒又ハ不規彈ニ直接衝突スルト

キハ若干ノ負傷ヲ受クルコトアルヲ以テ爲

シ得ル限リ防護ノ處置ヲトルヲ可トス

2. 發射彈落下地域ヲ清掃スルニハ吊傘ノ開不

開ニ関セズ打上ゲタル全數ヲ落下現場ニ於

テ銳利ナル缺ヲ以テ吊索ヲ根本ヨリ切斷シ

タル後靜カニ容器ニ收容シ之ヲ集メ其場ニ

於テ爆破スルカ水中ニ投棄ス

但シ安全布破損シ其儘取扱フヲ危険ト認

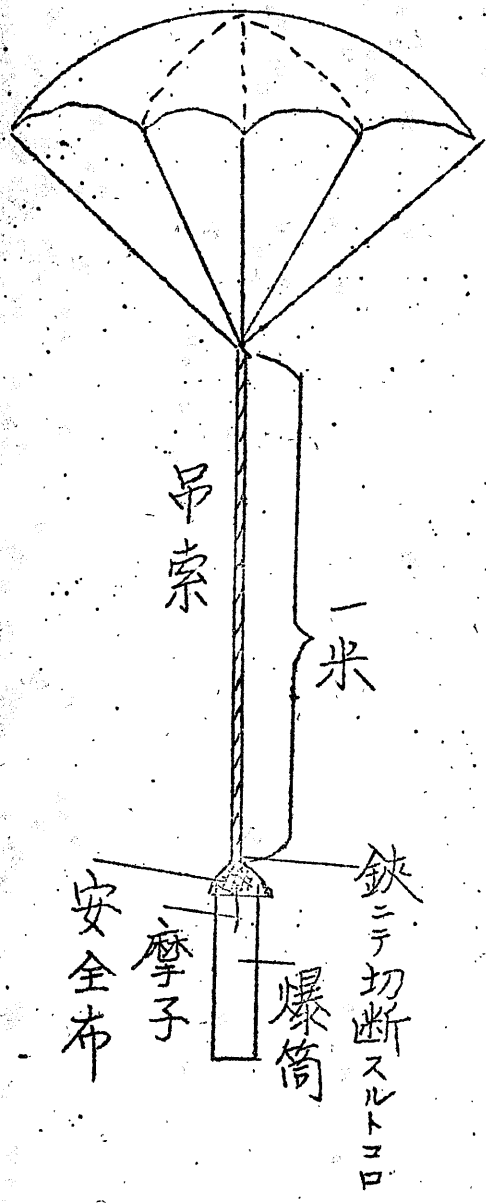
メタルモノハ銳利ナル缺ヲ以テ注意シテ安

全布及摩子ヲ根元ヨリ切斷シタル後前段ニ

準シ處置ス

162

落下傘附子彈要圖



3. 吊傘ノ吊索ヲ牽引スルトキハ爆筒ハ直ニ  
 爆發スルコトアルヲ以テハ狙シ觸發信管安  
 全布抗張力ハ約一二匹トシ足ニ引懸ケタル  
 位ニテハ發火セズ如何ナル場合ト雖モ吊  
 索ヲ牽引セザル如ク特ニ注意スルヲ要ス

2003

3/20  
極秘

「ウエワク」ニ於ケル参謀長、連絡事項覚書 一八、一〇、二四

全般(共通)関係

此方面ニ於ケル船舶業務統轄機關ヲ「ウエワク」附近ニ進出  
セシムル如ク意見ヲ上申シタルコトアルモ全般ノ關係上實現セス  
当地最高部隊長ニ船舶部隊ノ全部ヲ統一指揮セ  
シムルコトハ各隊任務ノ相違上之亦適當ナラサル事情アリ  
各方面ハ依然部隊間ノ密接ナル協同精神ニ依リ相互ノ  
關係ヲ円満ニセラレ度

此部隊海軍等トノ關係ニ於テ亦然リ

第三十一海軍司令部ト海上輸送大隊トノ關係ニ就テ局

地輸送ニ於ケル船舶ノ運輸ハ海上輸送大隊 揚塔ハ碇

泊場司令部ノ担任ナルコト明瞭ナルヲ運輸揚塔トノ間ニ

ハ密接不離ナル相互關係アリ從テ兩者カ別箇ニ計画

163

2004

海軍施スルトキハ西者ノ關係ヲ適切ニ律シ難ク殊ニ涉外  
關係ニ於テ敘索難ク未ス虞多シ之カ爲碇泊場司令部  
ト海上輸送大隊トハ局地輸送ニ関シ計畫時ヨリ其ニ体的  
トナル爲第十八軍ト了解シ下ニ將集西者ノ關係ヲ次ノ如ク  
スルニ決セリ

(1) 第十八軍ハ局地輸送ニ関スル命令茲ニ計畫ノ資料ヲ  
海上輸送大隊碇泊場司令部ノ西方ニ下達ス

(2) 碇泊場司令部ハ海上輸送大隊ト緊密ナル連絡ノ下ニ局  
地輸送ヲ計畫ス之カ爲海上輸送大隊長ハ適任ノ將

校ヲ碇泊場司令部ニ兼務セシムル他自ラハ碇泊場  
司令部ノ至近ニ位置シテ隨時連絡スルニ便ニス

(3) 局地輸送ノ爲ニ船舶港灣ニ於ケル揚塔ノ爲ニ舟艇作業  
兵力等ハ何レモ甚シク不足シアル現況ナルヲ以テ西隊ハ原則  
的任務分担ニ拘ハラヌ適時適切ニ船艇兵力ヲ流用シテ

全般ノ目的達成ニ協同ス

(二) 出港命令、碇泊場司令官了解ノ下ニ海上輸送大隊長

ニ於テ發令スルモノトス

碇泊場司令官ハ揚格ノ為ニ海上輸送大隊長ノ計畫

ル船舶全般ノ運航ニ支障ヲ来サシメサルノ責任ヲ有ス

ルモノトス

3. 資材整備関係

(一) 整備補給系統ノ確立

請求ハ四船司ニ対シ行ヒ同文ヲ宇呂ニ参考トシテ是出等

度現品ハ努メテ宇呂ヨリ現地ニ直送スル如ク又

之ヲ為「バラオ」ニ必要ナル機関ヲ設置シ度

(四) 第四船舶工作廠ハ將來四船司ノ直轄トシムラハ方面

資材整備補給業務ヲ担任セシメ度 亦木村班ハ第四船

船工作廠長ノ指揮下ニ入り先ツヨホルランヤレニ位置セシメ度



(ハ)船舶舟艇類不足ハ十分ニ之ヲ認ム。現有ノモノヲ保護  
 節用スルト共ニ司令部トシテモ希望ニ添フ如ク努力ス

4.揚揚作業力ニ就テ  
 揚揚作業兵力不足亦全般のナルヲ以テ揚揚作業量  
 ノ波ニ応ジテ兵力ヲ時期的ニ重莫使用ニ徹底スルト共ニ全  
 作業力ヲ一元的使用スル如クス

(イ)船舶部隊ト雖モ揚揚ノ他資材整備教育現地自活等  
 ナスヘキコト多シ然レ共揚揚量ニハ時期的ニ波アルヲ以テ船団  
 揚揚等ノ場合ハ他ノ業務一切ヲ中止シテ挙ケテ揚揚兵  
 力ノ檢出ニ努メ其代リ他ノ業務ハ揚揚因散シトキヲ利  
 用シ進捗セシムル如クス

(ロ)船舶部隊並ニ直接関係スル部隊トシテハ極力揚揚作業  
 力ヲ檢出シテ本然ノ揚揚遂行ニ努ムルニ猶兵力不足ヲ  
 来スコト多キヲ以テコノ不足兵力ハ突入輸送ニ局地輸送



ニ柏ハラズ碓泊場ニ於テ豫メ深谷參謀ニ一括要求ス

深谷參謀ハ右要求ニ応ジ所要ノ兵力ヲ他機兵師団等

ヨリ差シ出サシメ搭揚ニ支障ナカラシム、而シテ碓泊場

ニシテハ運ヲモ前日午前中ニ翌日ニ戻スル作業命令更

求テ下達 (提出) スルト必要ナリ

5. 兵部隊ト猛部隊トノ輸送要求ノ調節ハ深谷參謀ニ於

テ行ニ船舶部隊トシテハ両方面ノ要求共深谷參謀ヲ通

シテ實施スルモノトス、但シ船舶部隊ニ余力有ル場合ハ直接

ノ交渉ニ依リ努メテ部隊側ノ要求ヲ充足スル始ク努ラセ

6. 定例會同

船舶部隊相互間ハ勿論諸般關係其他トシテ間ニ有形無

形トシテ緊密ナル連絡ヲ保持スルコトハ極メテ緊要ナルニ

ハラズ相互ニ日常ノ業務ニ違ハレテ之ヲ機會捕提困難

ナルニ鑑ミ爾今深谷參謀ノ指導ニ依リ毎月一日十日

...

廿日ヲ期シ関係者ノ會同ヲ實施セラル度、此際相互、連絡ノ他後方関係者ニ對シ深谷參謀ヨリ前方ノ戦況前線、後方ニ對スル要求等ヲ率直ニ述ベラルトハ、特ニ得ル所大ナルベシ。

7. 各隊ノ宿營地、衛生、現地自活対策

(1) 宿營地ハ作業現場ニ努メテ近接セシムルヲ要ス

現碇泊場、揚陸隊ノ宿營地、揚格場ニ過遠ナリ速ニ適當ナル宿營地ヲ偵察シ移転スル度、亦海上輸送

大隊本部ハ局地輸送計画ヲ碇泊場司令部ト一体的ニ實施スル為碇泊場司令部附近ニ位置スルヲ必要ナリ

(2) 補給糧秣ノ減量ニ伴ヒ現地自活対策即チ農耕、採撈ハ尤モ必要ナリ蓋シ累加スル作業量ニ志スル為ニ兵ハ益

働カシムルヲ要シ働カシムル為ニ食セシメサルヘカラサルハナリ健兵対策上ヨリスルモコト見解ハ殊ニ價値アリ

二、第三十(碓泊場司令部関係)

八、当港ハル方面港灣ノ中樞ニテ当碓泊場ハ当港業務ノ

而シテ土地契努々々宿营地附近ノ開拓ニ依リ此ヲ得ル時海  
 軍地域内ノ土地ヲ一時使用スルモ妨ケスハニ根拠登参謀  
 大碓泊場司令官同席ノ下ニ農耕ノ為一時土地使用ノ  
 件了解済ナリ。亦作業兵力ハ尙舊古的ニ全員短  
 時間ヲ利用スルコトニヨリ或ハ揚格ノ波ヲ利用スルノ困  
 ナル時ヲ利用スルコトニヨリ揚格作業ニ大ナル支障ヲ来ス  
 事ノ實施シ得ヘシ

(ハ) ヲムシニ鳥ハ海上輸送大隊ノ碓泊船舶第四船舶工務  
 隊アルニ拘ハラス軍医ナキヲ以テ本土方面ノ衛生勤務被  
 之融通スルコトヨリ軍医一名ヲ同島ニ派遣スルルマ工夫  
 ヲラレ度

中心ナリ連日爆撃特ニ之カ為陸上施設、大半ヲ灰燼ニ帰  
シ老等、為日常ノ業務、宿營等ニ多ク不便ヲ生ズルニ  
至リ老ハ眞ニ氣、毒ナルモ益ニ志氣ヲ高揚シ在、望ラレ船  
舶部隊業務ノ中心トナリ任務ニ邁進セシ度  
計画司令部、重要ナル業務ヲ以テ過去ノ實績ヲ檢  
討スル共ニ大勢ヲ達觀シ将来ヲ洞察シ之ニ応スル計画  
ヲ樹立スルト極メテ肝要ナリ 泊地ノ標識棧橋ノ補修  
沈没舟艇ノ整理東北信風期ニ応ズ揚陸対策等  
直ニ計画シ着手ヲ要ス 猶之等計画ヲ適切ニ  
為ニ司令部内ノ業務ヲ分担シ南ニ研究ノ余地アルカ如ク  
司令部將校ハ一種ノ衿持ヲ以テ自ラ計画部署セルト  
ハ之ヲ飽マテ實施ノ部隊ニ實行セシムル體力ヲ有スト共ニ  
自ラ負フヘキ責任ハ進ニ責ヲ負ヒ責任ヲ回避セサルノ心掛  
ヲ必要トス 指導セラレ度

2. 揚播作業ニ関スル別項ヲ参照セラレ度  
3. 海運地施設ニ関スル揚陸隊工役廠ヲ活用シ更ニ強化  
セラレ度

4. 資材関係

大發六、マ、三、四、小發ニ要スル考慮スルモ舟艇不足亦全般的事ヲ以テ極力現有モノヲ愛用スル一共ニ沈没舟艇ノ整理等ヲ着手セラレ度

5. 海軍トハ直通ノ電話ヲ架設シ又連絡ノ主任者ヲ定メ不絶密接ニ連絡スルヲ可トシ、土地問題等ニ関スル現地自治

用地、如ク西者向ノ圓滿ニ交渉ノニ依リ解決スルニシテ便トス然レ共交渉事項ニヨリテハ深谷參謀師團ヲ經由スルモ亦此ヲ得サルベシ

6. 衛生兵ノ件ハ軍医部ヲシテ研究セム

7. 出張所ノ撤收ニ関スルニテハ関係方面ト連絡ノ上希

其ニ於テ如何ノ努力ナス

ハ、コソテ出張所ヲ三揚ニ相違ヒテ如何ス

9. コソテ、ヘリコプタート、通信連絡ノ為無線配置件研究

### 三、海上輸送第四大隊関係

1. 大隊本部ハ、コソテ、コソテ定位トスルニモ大隊長ハ隨時前方

ニ進出シテ猛トノ連絡ヲ密ニ且前方部隊ヲ指導スルニト

必要ナラン、本件ニ関シテ十分猛ト連絡、ニ決定セラレ度

2. 第三十一砲泊場司令部トノ関係

3. 第三揚陸隊第四十九砲泊場司令部トノ関係

隔地駐屯、海上輸送大隊ノ中隊ニ対シテ、揚陸隊長

或ハ砲泊場司令官カ船舶ノ出入港、揚格作業、宿營警戒

等商シテ處シ得ル如何ノ致度、但揚陸隊長ハ砲泊場司令

官ハ海上輸送大隊長ノ計畫カ船舶全般ノ運航ニ支障

生也シメサルコトニ関シ責任ヲ負フモノトス、船舶出港命令ハ

揚陸隊長碇泊場司令官之ヲ中隊長ニ依リ船舶ニ対シテ

中隊長ヨリ伝達スルモノトス、亦大隊長ハ輸送計画其他

必要ナル事項ハ隔地中隊長ニ依リト共同地揚陸隊長、

碇泊場司令官ニ通報スルモノトス

4. 海上機帆船等ノ見張員警備兵等ハ各方面局地輸送

間当然大隊長ノ指揮下ニ入りタリ考ヘテ度

5. 機帆船漢船ノ現況表ハ別紙様式ニ依リ調製シテ表

出セテ度

6. 船艦ノ武装ニ関シハ猛ニ要求スルニ度

7. 船艦ノ修理ニ関シテ第四船舶工務隊ヲテ極力實施セシ

メル方面沿岸秘匿輸送路ハ更ニ數案ヲ研究シ調査シ

才カシ度

9. 松令艦ノ必要性ハ十分ニ之ヲ認ム



174  
四 第九揚陸隊各勤務隊関係

公当港に於ては舟艇作業力不足、碇泊場司令官尤苦慮シ、且、以テ揚格ニ方テハ作業力檢出ニ特別工夫ヲ拂ヒ、猶舟艇受用修理ニ、第四船舶工作廠ト協力ニ極力努メラシメ度

教育訓練ハ揚格作業用ヲ利用シ行ヒ場合ニ依テ揚格ノ為訓練カ犠牲トナシ此際上ヲ得ルヘシ  
又各所ニ派遣シアル部隊ニ集結ニ関テハ十分ニ考慮ス

五 第四船舶工作廠関係

ハ当方面機帆船、漁船ヤマシハ何モ之衰損甚シク之等修復ハ船舶部隊全般ヲ通シ刻下ノ急務トナリ  
アルヲ以テ一部ト雖モナシ得ル限リノ協力ヲセラシ度而シテ碇泊場関係、海輸関係何ヲ先トスヘキヤハ原則的ニ

2015

175

決定シ難キヲ以テ迅速ニ修理シ得ルモ先トシスルヲ可ト  
 セスヤト思考スラル 眞ニ大局的見地ヲ公平ニ協カセ  
 レ度  
 又 米班ハ将来第四船舶工作教長ノ指揮下ニ入リコホセラ  
 ンヤニ位置シテ主トシテ当方面ノ修理ニ任セシメ度

2016

176

参  
考

配  
布  
先

猛

31 SET

14 SEY

9 SEY

4 KAY

4 SEK

3 SEY

深

2017

張司

參謀長連絡事項補足

一、ハシ工島ニ於ケル海上輸送大隊材料廠ヲ第四工作廠長

ニ併セ指揮セシムルヲ可トセスヤ、研究ヲ望ム

ニ海上輸送大隊ノ軍夫約半數ヲ第四工作廠長ノ指揮

下ニ入ラシメ工作廠ノ造修能力強化ヲ圖リ度

177  
以下  
白—4  
9号—1  
4号—2  
4号—1

2018